

米国姉妹都市派遣高校生 渡航レポート

大磯町国際交流協会から町内在住の高校生3人が7月20日(木)から8月3日(木)までの2週間、米国ウィスコンシン州ラシン市に派遣されました。ホームステイや市民との交流など貴重な体験をされた高校生たちのレポートをご紹介します。

問町国際交流協会事務局 (柳田宅) ☎(61)0296

「自由」と「多様性」を体感して

石野 文菜

ラシン市への渡航目的は、姉妹都市の方々が大磯町の魅力を伝えること、海外大学進学を目指すにあたり、海外生活に適性があるかを見極めることでした。

市内を散策していると様々な人種が共生していると感じました。人種をカテゴライズすることなく、市民全員が公平に扱われていることに感動しました。このことを表敬訪問時メイソン市長に伺ったところ、市では労働力として積極的に移民を受け入れることで、多様性に寛容な社会が形成されていると仰っていました。

滞在中には姉妹都市締結のきっかけとなったSC Johnson社の見学ツアーに参加し、設計時のエピソードの数々を知ることができて面白かったです。また、地元の野球チームとの試合の観戦では会場を盛り上げるお手伝いをしました。

図書館で行ったプレゼンテーションでは大磯町の歴史、自然、イベント、特産品についての発表と、日本文化として固有の言語であるひらがなの歴史を紹介しました。

滞在中にたくさんの方々と交流するなかで、英語力を褒めていただき、海外大学進学への自信をつけることができました。

最後に、ホストファミリー、国際交流協会の方々から感謝申し上げます。



ラシンの出会い

林 直太郎

私がラシン市に留学した目的は剣道を通して相手を尊重する精神を伝えることにより平和の考えを共有する、またコロナ禍で交換留学が止まってしまっていたラシン市と大磯との友好を再度深めることです。

現地では剣道のクイズや剣道の練習風景の動画を使って剣道の精神を伝えることができました。防具をつけて実演をした際は観客のみならずから拍手をいただきました。

プレゼン後には剣道を初めたきっかけを質問されたり素晴らしいプレゼンだったとみなさんに喜んでいただきました。多くの方に剣道に興味を持っていただけたので今までの努力が報われた気持ちでいっぱいになりました。また、ラシン市長を表敬訪問した際には、大磯の名所などについて紹介し、大磯に深く関心を示されました。そして市長が大磯を来訪される際は、自分がガイドすると約束しました。

二週間英語だけの生活で意思疎通がとれる心配でした。恐れずに何度も聞き返すことや、例え聞き取れなくても内容を推測して相手に確認する工夫をすることで仲を深めていくことができました。翻訳機という便利なツールがありますが、やはり人と人との友情を深めるには直接自分の言葉を一生懸命伝えることが一番大切だと感じました。

今回の留学では、コロナ禍で途絶えていた姉妹都市との交流を再開することができ、そして自分が大切にしてきた剣道の精神を伝えることができたことは大きな自信となりました。将来、海外の企業に就職し海外と日本を繋ぐ架け橋になりたいと強く思いました。



二週間の派遣を通じて学んだこと

川島 那月

今回、大磯町国際交流の派遣生として、私がラシンを訪れたと思った理由は大きく2つありました。

一つ目は、大好きな地元大磯の魅力を、大磯の観光キャラクターであるいそべえ、あおみと共に姉妹都市ラシンの方々へ伝えたいからです。私は中学生の頃から、いそべえ、あおみのボランティアスタッフとして町内外のイベントに参加することが多くなり、その活動の中で温かい雰囲気の大磯や自然の豊かさに気付かされ、ますます地元大磯が大好きになっていました。

魅力ある大磯の観光名所や豊かな自然環境をまとめ、ラシン市立図書館でプレゼンテーション発表をしよう、ラシン派遣生として決まった時から考えていました。浴衣を着て臨んだプレゼンテーションは多くのラシンの市民の方に関心を持ってもらい、大磯の魅力を国外にも発信することが出来たことがとても印象深く残っています。

二つ目は、自分の英語に対する壁を壊したいと思ったからです。私は英語が一番苦手な教科で、思えば、英語の勉強や外国人とコミュニケーションをとることを避けていました。私にとって初めての海外渡航になった二週間のホームステイでは、完璧な英語が難しくても伝えたい思いを強く持つことで、意思疎通ができ、人と人が繋がる温かみを強く感じる事が出来ました。

二週間の貴重な経験を活かし、これから人と人との繋がる温かみを大事にしなが、たくさんの方が笑顔になれる地元大磯町を守っていきなすと思えました。



デイトン市から学生が来磯

町国際交流協会では、7月6

日から18日までの13日間、米国姉妹都市オハイオ州デイトン市の学生2名をお迎えしました。学生たちは町内のホストファミリー宅に滞在して、町長との面談や旧吉田茂邸、箱根・東京などの見学、大磯高校の生徒との部活交流、小中学生の英語による歴史ガイド、そして着物の着付けやお茶などの日本の文化も体験しました。

滞在中は、多くの町民との交流を深め、大磯での夏の思い出をつくり、帰国されました。

